

第一次世界大戦

発端 (サラエボ事件 (1914.6.28) ボスニアの州都
セルビアの民族主義者(プリンツィプ)が奥帝位継承者である皇太子夫妻を暗殺
奥がセルビアに宣戦(7月末)、以後各国が同盟・協商関係に従って参戦
第2インターナショナル解体→参戦国では諸政党が政府を支持する(挙国一致体制)

参加国 【同盟国】独・奥・(ブルガリア・オスマン帝国)の4カ国
【連合国】英・仏・露・日・セルビア・モンテネグロなど
後に(伊)・(米)などが参加し、合計27カ国
【中立国】スイス・オランダ・スウェーデン・ノルウェーなど
【設問】伊が連合国側について理由

経過 独の作戦…短期決戦(シュリッペン)プラン

①1年目(1914)

西部戦線
8月 独軍、中立国(ベルギー)を通過して仏に進撃→(マルヌ)の戦阻止される
膠着状態…(塹壕) (Trench) 戦に突入 「西部戦線異状なし」
東部戦線
8月 (タンネンベルグ)の戦で独軍、勝利…(ヒンデンブルグ)将軍活躍
以後、独が露内に進撃するが、決着の見通しはたたず
戦争は予期しない(長期戦・物量戦)に突入

②2年目(1915)

5月 (ウツタープ)号事件…英客船が独潜水艦に沈められる→米・独の関係悪化
(伊)が連合国側について参戦

③3年目(1916)

2月 (ヴェルダン)要塞攻防戦…独軍の大攻勢が失敗 仏(パタン)将軍の活躍
5月 ユトランド沖海戦…英独海軍の激突、英の勝利→海上封鎖強まる
7月 (ソンム)の戦…連合国の反撃、失敗
→1915・16頃より新兵器(航空機・毒ガス・タンク)使用
潜水艦

④4年目(1917)

2月 独、(無制限潜水艦)作戦開始
3月 露、ロシア三月革命→(ロマノフ)朝滅亡、臨時政府は戦争継続
4月 (米)が連合国側について参戦

⑤5年目(1918)…連合国側の勝利

1月 米ウィルソン大統領、「14ヶ条」の平和原則を発表
2月 独、東部戦線でソと単独講話…(ブレスト=リトフスク)条約
8月 連合国軍、西部戦線で総攻撃→独軍退却
9月 ブルガリア降伏、以後トルコ、奥相次いで降伏

11月 (ドイツ革命)

→(キール)軍港で水兵が反乱 各地に(レーテ)(評議会)樹立
(ヴェルヘルム2世)はオランダへ亡命、国内諸君主も退位
共和国政府樹立、休戦協定(1918.11.11)

性格 ①(戦時外交)

・結束重視…戦後の領土・植民地の分配を約束(秘密条約)

例：ロンドン秘密条約

(サイクス=ピコ)協定…英仏露がトルコ領分割

戦後、米は
現存の
引く大問題

・植民地政策緩和…植民地や自治領への空手形(独立・自治の約束など)

例：(フセイン=マクマホン)協定…アラブ民族の独立支援

(バルフォア)宣言…ユダヤ人に(パレスチナ)での建国約束
インド兵の動員

②(総力戦)体制

・軍需工業優先、(女性・青少年)の動員、(食料配給制)実施
→大戦の影響が直接一般民に及ぶ

・新兵器の出現→大量殺戮兵器開発の競争が始まる

③未曾有の被害…軍人戦死者約800万人 民間人の死者も同程度とされる

結果

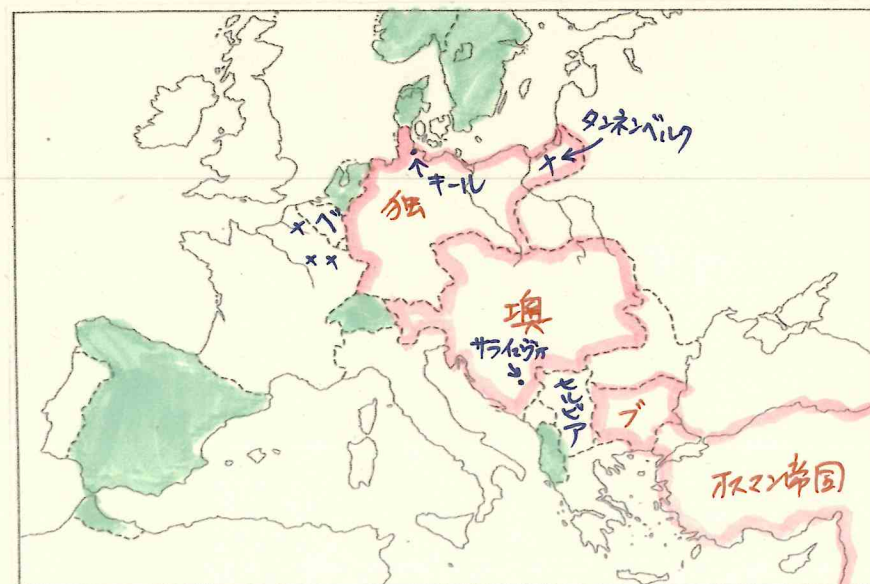
①国民多数の合意に基づく政治が主流化

→必要となれば、国家が国民生活に介入強化…各種(配給)制など

②ヨーロッパの停滞→欧中心の考え方・歴史観・科学技術への信頼が揺るぐ
米の台頭、露などで労働運動・社会主義の動き活発化

③(女性)の社会進出→女性(参政権)が認められ始める

④民族運動の高揚→植民地からの自立、独立運動激化



同盟国 中立

BRITONS



JOIN YOUR COUNTRY'S ARMY!
GOD SAVE THE KING

兵士募集ポスター



I WANT YOU
FOR U.S. ARMY